

## ▼ロゼウス静注液 [注] &lt;ナベルピンは2024.03 販売中止&gt;

【重要度】 【一般製剤名】 ビノレルピン酒石酸塩 (U) Vinorelbine Ditartrate 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [ビンカルカロイド]

【単位】 ▼10mg/V [1mL]・▼40mg/V [4mL]

【常用量】 ■非小細胞肺癌： 1回 20~25mg/m<sup>2</sup> を1週間間隔で静脈内に緩徐に注射

■手術不能又は再発乳癌： 1回 25mg/m<sup>2</sup> を1週間間隔で2週連続投与し、3週目は休薬

【用法】 10分以内で静注

■約50mLの生食、5%ブドウ糖、リンゲル液等で希釈

【透析患者への投与方法】 設定されていないが、慎重に投与 (1)

【その他の報告】 データが少ないが、使用するなら 20mg/m<sup>2</sup>/week (Janus N, et al: Ann Oncol 21: 1395-403, 2010)

血中減少のため 12.5~20mg/m<sup>2</sup>/週を選択 (Rollino C, et al: Nephron 1992 PMID: 1630554 [Letter])

【保存期 CKD 患者への投与方法】 設定されていないが、慎重に投与 (1)

【特徴】 ニチニチソウの茎、葉、根から抽出された成分から半合成されたビンカルカロイド。他のビンカルカロイドよりも神経毒性が弱い可能性がある。

【主な副作用・毒性】 血球減少、間質性肺炎、気管支痙攣、イレウス、心不全、真菌梗塞、ショック・アナフィラキシー、肺塞栓、SIADH、急性腎不全、急性肺炎、不整脈、知覚異常、頭痛、消化器症状、発熱など多数。

【代謝】 エステルの加水分解、芳香環の水酸化、エポキシド形成、N-酸化で代謝 (1) 代謝には CYP3A4 が関与していると推定 (1) 存在割合は低い が 17-脱アセチル体には活性がある (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 6~12%、17-脱アセチル体として 0.5%未満 [iv, 24hr まで] (1) 主に胆汁から糞便排泄され、尿中排泄は低い (U)

【t1/2】 27.7~43.6hr (U) 22~32hr (1)

【蛋白結合率】 79.6~91.2% (U) 血小板やリンパ球とも高率に結合する (U)

【Vd】 400~1790L/man (1)

【MW】 1079.13

【透析性】 資料なし (1) 低いと思われる (5)

【O/W 係数】 LogP=2.76 [1-オクタノール/buffer, pH 7.0] (1)

【相互作用】 CYP3A4 関連の相互作用に注意 (1)

【更新日】 20240627

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。